

1438

第四二號

撥

野戰砲兵第四聯隊第五中隊豫備陸軍砲兵一等卒	留守第四師團長、即指令案	受審	大正	大臣	人事課長	高根副官	參事官	主務局部長	聯帶局部長
		領	辨	次官	上查課員	主務副官	主務課長	聯帶課長	廳名
兵卒	死刑判決裁可之件	肆分三九號	提出	執行	年 月 日	年 月 日	年 月 日	年 月 日	年 月 日

陸軍省

津書
校合
小林

第四二號

1439

犯罪事件判決ノ通宣告執行ス可也

法律雑誌第一七三〇號

五月二日

内閣批第三四號

明治二十八年四月十四日

陸軍省
送陸軍省
陸軍省
送陸軍省
第六四九号

野戰砲兵第四聯隊第五中隊豫備陸軍砲兵

一等卒

ノ上官ニ對スル持兇器暴行

罪判決ノ件ハ上奏ノ通裁可ス

明治二十八年四月廿四日

奉勅 内閣總理大臣伯爵伊藤博文



陸軍省

封

四月廿四日



1441



野戦砲兵第四聯隊豫備陸軍砲兵一等卒 上官ニ對シ	受番	領	大臣 	人事課長	上奏案	豫備陸軍砲兵一等卒 上官ニ對シ持兇暴	廳名 第四師團司令部
	件名	肆方二三九號	次官 	高級副官 			
			參事官	主務副官			
			主務局部長	主務課長			
			聯帶局部長				
			聯帶課長				



淨書
校台

法第六四号

四月一日

持克哥暴行之件第四師管軍法會議之判決相當ト存候
因テ陸軍治罪法第八十八條ニ依リ判決書其他訴訟書類ヲ具
シ上奏候也

大臣ヨリ総理大臣ニ而移牒案

野戰砲兵第四聯隊第五中隊

豫備陸軍砲兵一等車

右之者裁判所裁可ニ関スル上奏書及進達彙ヤ

陸軍省 送印第六四九號

四月十四日

小

庶天第二〇五号

野戰砲兵第四隊第五中隊

豫備陸軍砲兵一等卒

右之者被害事件別紙判決書之者決議是問訴訟書相添以段及上申候也

明治廿八年三月廿九日

第四師團長山澤靜吉

陸軍大臣伯爵山縣有朋殿代理

陸軍次官兒玉源太郎殿

野戰砲兵第四隊第五中隊

豫備陸軍砲兵一等卒

右之者被上事件別紙判決書ノ通次議相成戻同訴訟書類相添致段及
上申差也

明治廿八年三月廿八日

理事 西山金千代

第四師團長 山澤靜告 殿

奈良縣大和國式上郡初瀬村三百五十二番屋敷住平民宅

延太郎長男料理業

野戦砲兵第四聯隊第五中隊

豫備陸軍砲兵一等卒

被告及同中隊兵卒

等ハ賭博仲間

ニ隊中ニ於テ屢々賭博ヲ行ヒ不正ノ行為アルヲ以テ下士等之ニ對シテ常ニ

爲最重ノ處置ヲナスヲ不滿ニ思ヒ被告ハ明治廿八年三月廿日夜右敷名ノ兵

ト明夜下士蒲團ヲ打被セ改行シヤラントノ協議ヲヤシメタル知密告者アリテ下士

ノ知ル所トナリ而シテ被告等ハ其密告者ハ同中隊上等兵中尾忠藏ノ所

爲ナラント信シ翌六日夜更ニ同中隊一等卒 [redacted] 同 [redacted] 寺

ト申合テ同日午後九時過キ即チ消燈后第一班室内西側ノ中兵ニ於ケル

忠藏ノ寢所ニ集リ忠藏ノ頭部ニ蒲團ヲ打被セ改行中間中隊一等卒

田村正晴其寢樓ノ音ヲ聞キ室内ノ電燈ニ點火シタルヲ以テ被告及 [redacted]

等ハ倉皇各自ノ寢所ニ逃歸リタルハ忠藏ノ首ニ起テ被告ノ跡ヲ追ヒ其寢所ニ

来リ被告ニ向ヒ只今自分ヲ打チタルハ貴様ナリト迫リ尚ホ被告ヲ打チタル

被告の前夜、密告者に忠告あり、信を懐き、其の居る所を以て突然
 殺害し、其の遺骸を戦地の携帶せしむる所持スル短刀ヲ投キ、刀忠告者の胸
 ヲ突キ、尚ホ其處所ニ進行キ、更ニ數刀忠告者の胸部面部等ヲ突キ、其
 以テ忠告者の遂ニ其場ニ斃レ、被告ハ又嘗テ新兵ノ時書籍購求ノ事
 ヨリ同中隊上等兵中野積次郎ニ改行セシメ、負傷シタルアルヲ平素遺
 恨ニ思ヒ、皆タルヨリ、此際積次郎モ其ニ殺シ自殺ヲサセト欲意シ、直ニ全
 室東南隅ニ在リ、積次郎ノ寝所ニ馳行キ、右短刀ヲ以テニ三回積次郎ノ
 面部ヲ突キ、タルモ積次郎室内ノ机ヲ回リ、廊下ニ逃出テタル為、遂ニ
 其目的ヲ遂クルヲ得ヌ、被告ハ積次郎已ニ逃去リタルヲ以テ、再ニ室ノ中央ニ
 立陣シ、タル隊同中隊曹長伊藤豊一被告ノ暴行ヲ聞知シ、室内ノ入来
 被告ヲ取押ヘントスルマ、被告者様何ヲスルト云ヒ、豊一ニ抗シ、右短刀

及び教田量一而部ヲ突キ直ニ同室ヲ進出シ管門ニ達シタル者皆其他
 追跡者ノ為メ遂ニ捕ハラレタリ而シテ蔵ノ敷キ所ノ創傷中前胸壁左第ニ
 肋間胸骨縁ニ近キ部ニ受ケタル長サニ仙深サ斜ニ后下方ニ向ヒ心臓及肺
 臓ヲ貫キ後胸壁ニ達スル創傷ニ因リ肩傷后ニ時間ヲ経テ疑キ絶命ニ頑
 次郎ハ右上下眼瞼及右側鼻孔下縁ニ受ケタル三ヶ所ノ創傷ニ因リ十日間
 休業ヲ要シ皇ハ左頸額骨乳頭突起ノ下頸高角ノ后部鼻骨部右頸部
 右口角痛下部ニ受ケタル五ヶ所ノ創傷ノ為ニ周間休業ニ罹リタリ
 以上事實ハ被告ノ自白理事ノ訊問書証人田村正晴重利次左次江戸
 伊之助ノ訊問書事實参考人伊藤量一中野禎次郎ノ訊問書陸
 軍憲兵曹長大河平隆晴ノ自白被告ノ人調書及檢証調書陸軍三
 等軍医加藤麟太郎及全通呂男三郎ノ作りタル鑑定書押取シタル

短刀其他ノ証憑ニ依リ明瞭ナリ

之ヲ法律ニ照スニ被告者

等ト共ニ忠藏ニ対シ暴行ヲナ

シタル所内ノ陸軍刑法第百八十四條ニ該シ正犯タルヲ以テ一月以上一年以下ノ
 範圍内ニ於テ重禁錮五月ニ処ス又其突然殺意ヲ生シ忠藏ヲ殺害シタ
 ル所内ノ刑法第百九十四條ニ該ス固テ無期懲刑ニ處テ又其同ノ突
 然殺意ヲ生シ頑次郎ヲ殺害シテトナシ遂テナル所為ハ殺害未遂
 ニ係ルヲ以テ刑法第百九十四條同第百十三條第一項同第百十三條
 リ其既遂ノ刑ニ一等ヲ減シ有期懲刑十三年ニ処ス又其上官タル儘ニ
 對シ兇器ヲ以テ暴行ヲナシタル所内ノ陸軍刑法第百九十九條第二項後
 シ其量一ヲ突テ二週間休業ニ至リタル創傷ヲ成シタル所内ノ刑法第百
 一條第二項ニ該シ再犯ニ係ルヲ以テ同法第百九十二條ニ照シ本刑ニ等ヲ加ヘ

一月七日以上一年三月以下ノ範囲内ニ於テ重禁錮八月ノ如クハキモトス之ヲ
陸軍刑法第百五條ニ照ス其重キハ上官ニ對シ兇器ヲ以テ暴行ヲシタル罪ニ
アリトス因テ死ニ如ク

右數罪俱發ス因テ陸軍刑法第百六條ニ照シ一重キ上官ニ對シ兇器ヲ
以テ暴行ヲシタル罪ニ從テ死刑ヲ執行ス

其忠藏續次郎ヲ殺害スルノ用ニ供シタル短刀一振ハ被告ノ所有ニ係リ
以テ刑法第百五條ニ依リ之ヲ沒收ス

明治廿八年三月廿八日

第四師管軍法會議

判士長 陸軍歩兵少佐 西高俊一

判士 陸軍歩兵大尉 湯川博一

判士 陸軍歩兵中尉 藤山正九

判士 陸軍歩兵中尉 奇藤要

判士 陸軍歩兵少尉 谷寛範

理事 西山金千代

録事 杉 憲 喜

陸軍砲兵一等卒 巖 程 延 吉

(理事意見書、首書文、同文、同署名)

右之通外断可然矣也

明治廿八年三月廿八日

理事西田金平代

一件書目録

一審判命令書

共通

一丁第三三六二年

共格

但書類標目書之通

一証物目録書

共通

一砲兵大尉近藤礼四郎書

全

一全大尉意見書

全

1451

一 同大村田各書

全通

一 大坂豫備病院田各書

全

一 日記二五二〇号

全

一 [Redacted] 召喚状

全

一 同収禁状

全

一 同訊問書

全通

一 伊藤豊一呼出状

全通

一 同訊問書

全

一 中野積次郎呼出状

全

一 同訊問書

全

一 田村正晴呼出状

全

一同宣誓書

全

一同訊問書

全

一江戸傳之助呼出状

全

一同宣誓書

全

一同訊問書

全

一重利交左次呼出状

全

一同宣誓書

全

一同訊問書

全

一井上專吉呼出状

全

一同宣誓書

全

一同訊問書

全

全

1454

上

上



時 乃 日 可 行
[Redacted]

件 附 属 書 類 之 内 通 印 名 以 外 電 話

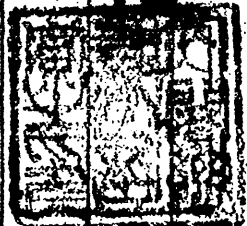
ヲ 以 中 一 油 行 爲 我 國 塔 乃 日 通 印

號 之 事 件 亦 使 出 家 老 也 亦 爲 事 以 爲 出

方 一 分 妙 也 一 達 之 也

同 日 年 四 月 五 日

由 公 建 行 信



山 内 清 年 五 十 八 歲 收

陸 軍 六 〇 局

四 月 廿 五 日



内 閣

二管部

中より一七二時ニテハ

旨別費

書付ルハ何レモ
正物多シ長

送之ヲ一七二時ニテハ



物事本件先刻報ハ、本年合ニテハ

ノ様事ナシ是迄ノ慣例ニ依リテ

原より支ナキヤ、聞合セ及

ブ

陸軍省
陸軍省
陸軍省

五月五日

陸軍省



巻	頁	冊	日	時	分	秒	局
一	一	五	五	五	五	五	五
...
...

人 籍 姓
 リン
 フク
 ヤマ
 日本
 親
 ルス
 サ
 フカ

1458

局		第		局		人	
時		時		時		時	
分		分		分		分	
字		字		字		字	
日		日		日		日	
號		號		號		號	
報		報		報		報	



乙
 7
 甲
 ト
 イ
 ヤ
 ハ
 也
 乙
 7

日本政府電報發送紙 第十号
 定額
 筆記

乙

人

第...
第...
第...

内閣、申譯按

野戰砲兵第四聯隊第五中隊

豫備陸軍砲兵一等車

古之若被告事件判決書ヲ以テ上奏去ル四月廿四日裁可
相成者身本月十日宣告執行及旨其抄物ヲ届出候間此
取及申譯也

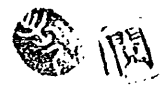
耳省 送甲第八七三號

五月廿日

冬照

明治廿八年報才四四八號

陸軍省



第...

五月廿日